令和6年度　都立総合工科高等学校　定時制課程　年間授業計画

教　科	国語	科　目	現代の国語	単位数	2
対象学年・組・コース	第　1　年　1　組	教科担当者	紫垣　紗和　／　眞木　佐智子		
使用教科書	『高等学校　標準　現代の国語』(第一学習社)				
使用補助教材	『改訂版　漢字検定７～２級対応　書きたくなる　アシスト常用漢字』(数研出版)				

教科『　国語　』の目標	
【知 識 及 び 技 能】	社会生活に必要な国語を適切に使うことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目『　現代の国語　』の目標		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、考えを深めることができる。	生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	書	読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	話して伝える　スピーチで自分を伝える・相手に伝わる案内をする ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法や目的を的確に達成できる案内の仕方を身に付ける。【知】【思】 ・スピーチを聞き、自分の話し方に活かしたり、相手や状況に応じて表現したりしようとする。【学】	・題材を決め、原稿を作る。 ・スピーチをし、相互評価する。 ・評価を受け、内容を練り直し、再度スピーチし、その内容を相互評価する。 ・設定されたテーマについて、原稿を作成する。 ・原稿に対する評価を行う。 ・原稿作成に端末を利用する。	○			・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法や相手に配慮しながら目的を的確に達成できる案内の仕方を理解し、実践している。【知】【思】 ・他の人のスピーチを聞き、自分の話し方に活かそうとしている。 ・わかりやすい案内をしようとしている。【態】	○	○	○	9
	書いて伝える　書き方の基礎レッスン・身近な製品の取扱説明書を作成する ・表記や表現の基本ルールを身に付ける。【知】【思】 ・わかりやすい説明ができるようにする。【学】	・教科書を使用 ・表記や表現の基本ルールを理解する。 ・説明の仕方を工夫する。 ・端末を用いて、ホチキスの取扱説明書を作成し、相互評価する。		○		・表記や表現の基本ルールを理解できている。【知】 ・わかりやすい説明ができている。【思】 ・わかりやすい説明をしようとしている。【態】	○	○	○	8
	人間と文化　『水の東西』山崎正和 ・対比に着目して要旨を把握し、自分の意見を論述できる。【知】【思】 ・文化について考えを深める。【学】	・教科書を読み、対比構造を用いた叙述方法を把握する。 ・端末で水を用いた芸術や仕掛けについて調べる。 ・論旨を把握し、意見文を書く。			○	・対比を用いた叙述方法を理解している。【知】 ・自分の意見を適切に述べている。【思】 ・文化について考えを深めようとしている。【態】	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
2学期	話して伝える　話し方の工夫・待遇表現・論理的な表現 ・受け手に伝わる表現や場に応じた表現、主張と理由の関係性や妥当性を理解し、使うことができる。【知】【思】 ・受け手が理解しやすく、説得力のある表現をしようとする。【学】	・教科書を使用 ・話し言葉と書き言葉、相手や目的及び場面に応じた言葉遣い、待遇表現、論理的な表現のための要素について理解する。	○			・話し言葉と書き言葉、場面に応じた表現について理解している。【知】 ・場面に応じた話し方を判断し、表現できる。【思】 ・進んで受け手が理解しやすい表現をしようとしている。【態】	○	○	○	9
	書いて伝える　地域の魅力を紹介する ・情報を収集・整理し、的確に紹介する方法を身に付ける。【知】【思】 ・魅力が伝わる紹介をしようとする。【学】	・地域の紹介文を作成し、発表する。 ・発表内容を相互評価する。 ・端末を用いて、自分が住む地域の魅力を調べる。		○		・情報を収集・整理し、的確に紹介する方法を理解している。【知】 ・わかりやすく魅力が伝わる紹介ができている。【思】 ・わかりやすく魅力が伝わる紹介をしようとしている。【態】	○	○	○	6
	世界を広げる『なぜ本を読むのか』又吉直樹 ・要旨を把握する方法や自	・教科書を読み、本文の要旨を把握する。 ・読書の効用について、等				・論旨を把握する方法を理解している。【知】 ・自分の意見を適切に論述でき				

	・要旨を把握する方法や自分の意見を論述する方法を学ぶ。【知】【思】 ・文章を読み、考えを深める。【学】	・読書の効用について、筆者の考え方を踏まえて自分の意見を文章にまとめ、発表する。		○		・自分の意見を適切に論述できる。【思】 ・読書の効用について、考えを深めようとしている。【態】	○	○	○	6
	社会と人間　『人はなぜ仕事をするのか』内田樹 ・論旨を理解し、自分の考えを論述できる。【知】【思】 ・職業観を広げようとする。【学】	・教科書を読み、本文の論旨を理解する。 ・仕事に対して、学習前と後で考え方がどう変わったかまとめ、発表する。			○	・本文の論旨を理解できている。【知】 ・自分の考えを適切に述べている。【思】 ・職業観を広げようとしている。【態】	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
3学期	話して伝える　合意形成のための話し合いを行う ・話し合いの進め方を理解し、議論を深めることができる。【知】【思】 ・学習や話し合いに主体的に取り組む。【学】	・話し合いの基本的なルールを学ぶ。 ・テーマに沿って話し合う。 ・評価し、振り返りをする。	○			・話し合いの進め方のルールを理解している。【知】 ・話し合いの進め方を工夫している。【思】 ・学習や話し合いに主体的に取り組んでいる。【態】	○	○	○	6
	現代と社会　『黄色い花束』黒柳徹子 ・本文の構成や論旨を理解し、考えを論述できる。【知】【思】 ・筆者の思いに対し、自分の考えを深める。【学】	・本文の構成や論旨を把握する。 ・筆者の思いに対し、どう考えるか論述する。		○		・本文の構成や論旨を理解している。【知】 ・自分の考えを適切に述べている。【思】 ・主体的に理解を深め、意見を発表している。【態】	○	○	○	5
	書いて伝える　社会に対す意見文を書く ・意見文の書き方を身に付ける。【知】【思】 ・主体的に評価し、より優れた表現を目指す。【学】	・題材を決め、意見文を書く。 ・相互評価する。 ・評価をもとに、清書する。		○		・意見文の書き方を理解している。【知】 ・適切に推敲し、清書している。【思】 ・より優れた表現を目指そうとしている。【態】	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
										合計 70

令和6年度　都立総合工科高等学校　定時制課程　年間授業計画

教　科	国語	科　目	言語文化	単位数	2
対象学年・組	第　2　年　1　組	教科担当者	紫垣　紗和　／　眞木　佐智子		
使用教科書	『新編　言語文化』(数研出版)				
使用補助教材	『改訂版　漢字検定７～２級対応　書きたくなる　アシスト常用漢字』(数研出版)				

教科『　国語　』の目標	
【知 識 及 び 技 能】	社会生活に必要な国語を適切に使うことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目『　言語文化　』の目標		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化に関することを身に付ける。	表現したいことを明確にして効果的に文章を書いたり、読み取った内容を的確に解釈し、我が国の言語文化について考えを深める。	我が国の言語文化に関心をもち自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 書	領域 読 古典	領域 読 近代	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	詩歌を味わう　『サーカス』中原中也 【知】詩に凝らされた工夫について理解する。 【思】詩中の人物の思いや表現の効果について考える。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を使用 ・詩に凝らされた工夫について理解し、自身がこれまで目にした詩について、体験などをもとに考えをまとめる。 ・詩に関する調べ学習で端末を使用する。	○			【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思】自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	5
	古典に親しもう 【知】歴史的仮名遣いについて理解する。 【思】現代の言葉との違いや共通点について考える。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を使用 ・いろは歌や有名な古典作品の冒頭を、現代の言葉の違いに気をつけながら読み味わう。		○		【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。 【思】文章表現の特色について評価している。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	古文の世界を楽しむ「児のそら寝」『宇治拾遺物語』 【知】口語と文語の違いについて理解する。 【思】動作主がよく省略されることに注意し、話の展開を考える。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を読み、歴史的仮名遣いの基本知識をおさえる。 ・この説話のおもしろさについて考える。		○		【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	5
	地域の「ことば」　『とんかつ』三浦哲郎 【知】「とんかつ」が登場人物にとってどのような意味合いを持っているのか、文脈の中で理解する。 【思】方言が用いられていることに着目し、そのもたらす効果について考える。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を読み、登場人物の心情や方言がもたらす効果について理解する。 ・地域の方言について調べ、印象や特徴などについてまとめる。 ・調べ学習に端末を使用する。			○	【知】文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思】文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができている。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	4
	日本語の中に生きる漢文　訓読のきまり・格言 【知】訓読のルールについて理解する。 【思】訓読の方法を格言の読みとりに活かし、その価値について考える。	・教科書を使用 ・訓読のルールについて理解する。 ・格言に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえる。		○		【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまりや古典特有の表現などについて理解している。 【思】文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	○	○	○	3

	【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。					【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。				
	定期考査						○	○		1
2学期	故事と成語　「漁夫の利」 【知】現代の日本語の中には漢文に由来するものも多くあることを理解する。 【思】故事成語の成り立ちとその意味を説明できる。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を使用 ・漢文を読み、故事成語の意味を理解する。 ・故事成語がなぜ成立したのかを調べ、まとめる。 ・調べ学習に端末を使用する。		○		【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	6
	論語のことば　『論語』 【知】論語の思想を理解する。 【思】漢文に取材した落語との関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を使用 ・論語の思想を理解する。 ・漢文を素材にした落語との関係性について調べ、まとめる。 ・調べ学習に端末を使用する。		○		【知】我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	受け継がれる古典　『羅生門』芥川龍之介 【知】『羅生門』と『今昔物語集』の関係性を知ることで、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 【思】『羅生門』と『今昔物語集』における描写の違いを丁寧に考察することにより、『羅生門』の解釈を深める。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を読み、作品の舞台設定や登場人物の心情について理解する。 ・『今昔物語集』「羅城門の上層に登りて死人を見る盗人の話」の現代語訳を読み、『羅生門』という作品にどのような効果をもたらしているかを考察する。 ・調べ学習に端末を使用する。			○	【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	14
	定期考査						○	○		1
3学期	戦乱下の人間像　『平家物語』木曽の最期 【知】軍記物語の特徴である音便や対句に注意しながら本文の内容を理解する。 【思】義仲と兼平の人物像について本文を踏まえて理解する。 【学】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を音読し、文章のリズムや表現の特徴を理解する。 ・軍記物語の特徴を確認する。 ・登場人物の人物像や心情、当時の武将の理想とされる姿(理想の死)を理解する。 ・調べ学習に端末を使用する。		○		【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。 【思】作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 【態】進んで内容を解釈し、課題に沿って学習に取り組んでいる。	○	○	○	17
	定期考査						○	○		1
										合計 70

令和6年度　都立総合工科高等学校　定時制課程　年間授業計画

教科	国語	科　目	国語表現	単位数	2
対象学年・組	第　3　年　1　組	教科担当者	紫垣　紗和　／　眞木　佐智子		
使用教科書	『国語表現』（東京書籍）				
使用補助教材	『級別漢字学習』（とうほう）				

教科『　国語　』の目標	
【知 識 及 び 技 能】	社会生活に必要な国語を適切に使うことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
【学びに向かう力、人間性等】	言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目『　国語表現　』の目標		
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	分かりやすく説明しよう　情報の整理・伝達 【知】基本的な語彙・文法の知識を身につける。 【思】A：目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集・整理して、伝え合う内容を検討できる。 B：読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。 【学】学習を通じて得られた「分かりやすく説明する方法」を、日常生活においても状況に応じて使えるようにする。	・教科書を使用 ・ガイダンスと表現活動に親しむためのゲームを実施。 ・話し言葉と書き言葉の特徴、表現と特色を理解し、場面に応じた適切な表現の仕方と使い分けについて指導する。	◎	○	【知】基本的な語彙・文法の知識を身につける。 【思】A：目的や場に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集・整理して、伝え合う内容を検討している。 B：読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 【態】学んだことを進んで日常生活に活かそうとしている。 ※授業における取組を評価する	○	○	○	10
	身体で表現しよう 【知】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解する。 【思】視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【学】進んで活動し、課題に沿って学習に取り組む。	・教科書を使用 ・有名人や歴史上の人物、アニメの登場人物を演じ、誰を演じたかを当てるゲームを行う。 ・発声練習と語調に注意した朗読練習を行う。 ・インプロ(即興劇)に取り組む。 ・漢字や語彙の指導を同時に実施する。	○		【知】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 【思】視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。 【学】進んで活動し、課題に沿って学習に取り組んでいる。 ※授業における取組を評価する	○	○	○	5
	表現を楽しもう　創作 【知】省略や反復などの表現の技法について理解を深める。 【思】読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなど吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。 【学】課題に沿って、進んで創作活動に取り組む。	・教科書を使用 ・物語や小説を創作する。 ・漢字や語彙の指導を同時に実施する。特に、レトリックについて指導する。		○	【知】省略や反復などの表現の技法について理解を深めている。 【思】読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなど吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。 【態】課題に沿って、進んで創作活動に取り組む。 ※完成した小説及び相互評価について、評価する。	○	○	○	9

2学期	情報活用力を身につけよう　広報資料 【知】話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解する。 【思】A：自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫すること。 B：読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫すること。 【学】工夫して情報を発信する態度を身につける。	・教科書を使用 ・学校の広報資料を作成する。 ・内容に応じて、適宜アンケートをとったり、インタビューしたりする。 ・作成に端末を使用する。 ・漢字や語彙の指導を同時に実施する。		◎	【知】話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解する。 【思】A：自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫している。 B：読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。 【態】工夫して情報を発信する態度を身につける。 ※広報資料作成の取り組み及び作成した広報資料を評価する。	○	○	○	12
	説得力のある提案をしよう プレゼンテーション 【知】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解する。 【思】A：相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫できる。 B：聞き手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。 【学】進んで学んだことを日常生活や学校生活に活かそうとする。	・教科書を使用 ・提案内容を考える(旅行会社になりきり、修学旅行プランを教員に提案する)。 ・プレゼンテーションの内容と方法を考え、プレゼンテーションを行う。 ・調べ学習およびプレゼンテーション資料の作成に端末を使用する。 ・漢字や語彙の指導を同時に実施する。	◎	○	【知】言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。 【思】A：相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫している。 B：聞き手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。 【態】進んで学んだことを日常生活や学校生活に活かそうとしている。 プレゼンテーション資料作成への取り組み及び発表内容について評価する。	○	○	○	16
3学期	論理的な文章を書こう　小論文 【知】実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深める。 【思】自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現の仕方を工夫できる。 【学】進んで学んだことを日常の表現活動で活かそうとする。	・教科書を使用 ・小論文には様々なタイプがあることを理解する。 ・自分の考えを掘り下げ、主張としてまとめる練習をする。 ・調べ学習に端末を使用する。 ・小論文を執筆し、推敲する。 ・漢字や語彙の指導を同時に実施する。		○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。 【思】自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現の仕方を工夫している。 【態】進んで学んだことを日常の表現活動で活かそうとしている。	○	○	○	17
	定期考査					○	○		1
	※思考力・判断力・表現力のA項目は話すこと・聞くこと、B項目は書くことに関する指導目標及び評価規準である。								合計 70

都立総合工科高等学校　定時制
令和6年度　年間指導計画

令和6年4月1日

学年	4	教科	国語	科目	現代文B	単位数	2	区分	必履修

教科書	『新編 現代文Ｂ』（東京書籍）
副教材	『級別漢字学習』（とうほう）

担当教諭氏名	紫垣　紗和 ／ 眞木　佐智子

教科・科目の目標・ねらい
①漢字や語句を中心に、基礎的な語彙力を身に付ける。 ②進学や就職試験に対応するための国語常識を学ぶ。 ③様々な種類の文章に触れ、基礎的な読解力を養う。 ④平易な作文や小論文を書くための表現力を身につける。

評価のねらい・観点
①関心・意欲・態度…真面目に授業に取り組み、提出物や出席状況が良好である。 ②聞く力・話す力…目的や場面に応じて、適切に話したり、聞いたり出来る。 ③書く力…筋道を立てて文章を書き、自分の考えを表現することができる。 ④読む能力…文章の内容を正しく理解し、自分の考えの幅を広げている。 ⑤言語についての知識・理解・技能…漢字や語句の意味を理解し、適切に使うことができる。

	予定時数	指導内容	
		教科書	級別漢字学習
１学期	24	①評論「最初のペンギン」茂木健一郎 ②評論「言葉は世界を切り分ける」今井むつみ ③小説「みどりのゆび」吉本ばなな ④作文・小論文	４級②③を重点的に学習 漢字検定対策2～7級を実施 進路対策を実施
２学期	28	①評論「思考の肺活量」鷲田清一 ②小説「カンガルー日和」村上春樹 ③小説「山月記」中島敦 ④詩歌「竹」萩原朔太郎 ⑤表現活動　心に残った詩について発表する	４級④⑤を重点的に学習 漢字検定対策2～7級を実施 ９月中旬ごろまで進路対策を実施
３学期	18	①随想「カフェの開店準備」小池昌代 ②作文・小論文	４級⑥を重点的に学習 漢字検定対策2～7級を実施
学年計	70		

その他
①各回の定期考査の成績　②提出物や小テストの結果　③出席状況や授業態度を考慮して総合的に評価する。